

インドネシアの金利引き下げについて

2016年2月19日

2月18日(現地時間)、インドネシア中央銀行は定例の金融政策理事会を開き、政策金利であるBILレート(Bank Indonesia レート)を0.25%引き下げ、7.00%とすることを決定しました。1月14日に続いて、2会合連続の利下げ決定であり、併せて預金準備率も7.50%から6.50%へ引き下げられました。為替市場では、利下げ決定直後こそややインドネシア・ルピア安に振れましたが、もともと利下げを予想する向きが優勢だったこともあり、影響は長続きしませんでした。

《利下げの背景》

インドネシア中央銀行が金融政策決定後に発表した声明文によれば、今回の利下げ決定の理由として、今後の持続的な経済成長を支援するためにさらなる政策対応が必要との考えが述べられており、そのうえでインフレ圧力の緩和見通しや米国の金融政策を巡る先行き不透明感の後退により追加金融緩和余地が拡大しているとの現状認識も示されました。

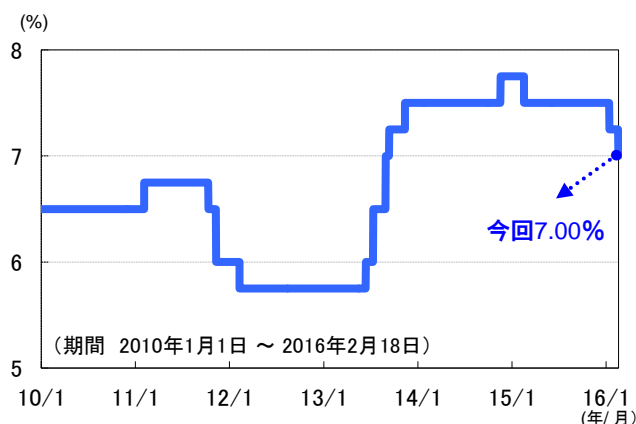
2015年は世界的な景気減速と資源価格の低迷で輸出部門は不振にあえぎ、年後半になってようやく政府支出の拡大をテコに景気は持ち直してきました。物価の安定と経済成長の加速を好感したとみられる海外からの資金流入に支えられ、ここ最近のインドネシア・ルピア相場は安定感を強めています。今回の利下げ決定も海外資金を呼び込む魅力を備えた頑強なマクロ経済環境を、政府と中央銀行が協調して構築していこうという政策意思の表れと読むことができます。

《今後の見通し》

2015年は、年前半は輸出の不振や政府予算の執行の遅れなどから国内景気は停滞気味に推移していましたが、年後半になってインフラ投資に伴う政府支出の回復がようやく景気底上げに寄与するようになりました。また、物価に関しては、2015年11月以降は消費者物価指数(CPI)の伸び率は大幅に鈍化してきており、中央銀行の定めるインフレ目標の範囲内に収まってきました。今後のインドネシア・ルピア相場は、中国景気の動向、新興国市場全般に対する投資家心理の変化といった外的要因には引き続き注意が必要ですが、ひとまず国内の景気回復と物価安定に目処がついたことで投資資金の流入が期待でき、当面インドネシア・ルピアは安定した値動きを維持するとみえています。

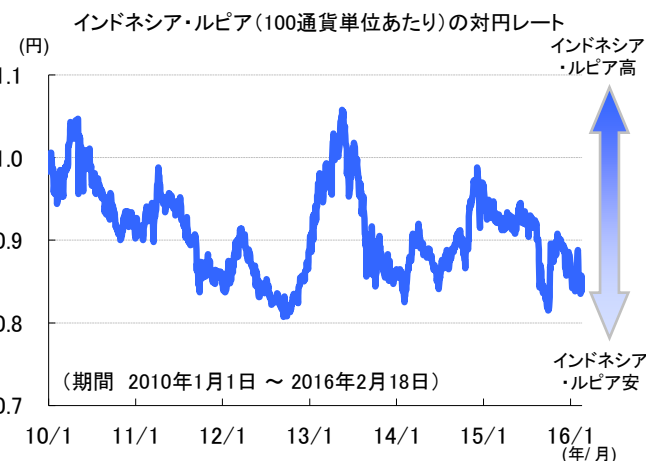
- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成